

産業看護職の存在意義向上に関する研究



大学院 公衆衛生学研究科 准教授／産業環境保健学センター

金森 悟

KANAMORI, Satoru



URL : <http://www.med.teikyo-u.ac.jp/~tsph/> ・ <http://tcoeh.org/>

看護・リハビリ

板橋キャンパス

キーワード：産業看護職、ヘルスプロモーション、健康格差

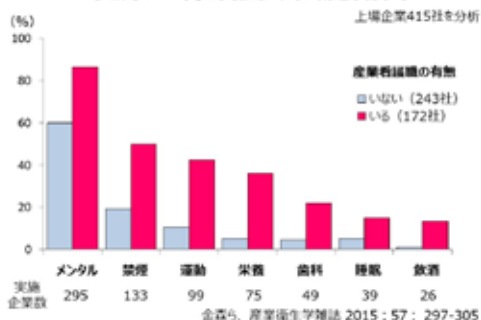
研究の概要

【これまでの研究】

企業における産業看護職の選任は法制化されておらず、その存在意義が認知されにくい。そこで、工場企業を対象に、事業場の産業看護職の有無と健康づくり活動の実施状況との関連を検討したところ、産業看護職がいる事業場の方が様々な健康づくり活動の実施割合が有意に高かった(図)。また、多職種を対象に産業看護職の存在意義を検討したセミナーを開催し、200名弱でグループワークを行った。その結果から、産業看護職の強みは社会人や医療職としてのスキルをベースに、社員にとっての身近な存在として関わり、課題を解決するために各関係者をコーディネートし、看護の視点でPDCAサイクルを回すということを明らかにした。

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標8：働きがいも経済成長も

事業場の産業看護職の有無別の健康づくり活動の実施割合



【現在の研究】

現在は、事業場で活動する産業看護職における健康施策実施の合意形成を得るために必要なコンピテンシーの解明と、そのコンピテンシーを高めるための教育プログラムの開発に取り組んでいるところである。これらを明らかにすることで、健康施策を推進していくうえで重要な存在である産業看護職のスキルアップにつなげることができる。このような形で、産業看護職の存在意義を高めることに貢献していきたい。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

近年、ストレスチェック制度や健康経営優良法人の認定基準などにおいて、産業看護職の積極的な活用が促されている。しかし、産業看護職の雇用状況を調べた調査では、従業員数50名以上の工場企業において、産業看護職を雇用しているのは半数にも満たない(41.4%)ことが明らかにされている。産業看護職が企業や社会でより必要とされる存在になるためには、産業看護職が働くそれぞれの場において存在意義を高めるとともに、社会にも示していくという課題を解決する必要がある。

知的財産・論文・学会発表など

1. Kanamori S, Tomiyama K, Haruyama Y. Comparison of BMI changes in Japanese adults receiving face-to-face versus online counseling for specific health guidance: a non-inferiority prospective observational study. Journal of Occupational Health 2024; uiae026.
2. 元田紀子, 金森悟, 福田吉治. 企業の健康施策決定プロセスに関与する産業看護職に必要なコンピテンシー. 日本産業看護学会誌 2023; 10(2): 23-33.
3. 伊藤まり子, 金森悟, 企業内産業看護職の業務に対する関与の必要性和能力-企業担当者と産業看護職の認識に関する記述疫学的研究-. 日本産業看護学会誌 2022; 9(2): 62-69.
4. 金森悟, 宇都宮千春, 石倉恭子ら. デルファイ法を用いた調査による今後の日本産業看護学会のあり方に関する会員のニーズ. 日本産業看護学会誌 2023; 10(1): 11-19.

ATP 測定法を用いた注射吸い上げ技術の検証



医療技術学部 看護学科 教授

新井 直子

ARAI, Naoko



看護・リハビリ

URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.34fb6fe39210215d.html>

板橋キャンパス

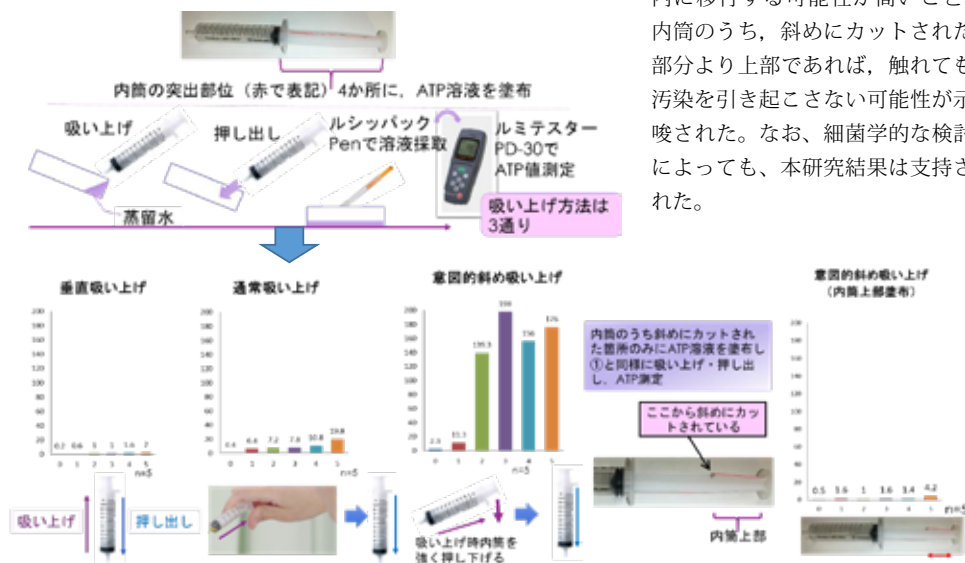
キーワード：看護技術、注射、無菌操作、ATP

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

看護基礎教育では、注射器の操作時は薬液の清潔を保つために、注射器の内筒に手を触れぬように薬液を吸い上げることを原則としている。その一方、臨床現場では薬液吸い上げ時に内筒に手指が触れていることもあり、看護基礎教育での内容と実際に矛盾がある。そのため、手指が内筒に触れることによるシリンジ内汚染の可能性について、ATP 測定法を用いて実験的に検討した。

その結果、吸い上げ方法（特に斜めに強く操作すること）によって、内筒に付着した物質がシリンジ内に移行する可能性が高いこと、内筒のうち、斜めにカットされた部分より上部であれば、触れても汚染を引き起こさない可能性が示唆された。なお、細菌学的な検討によっても、本研究結果は支持された。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

本研究結果は、エビデンスに基づいた適切かつ臨床現場で活用可能な技術教育につなげていくことができると考える。

知的財産・論文・学会発表など

学会発表：新井直子，加藤志保子，新井龍：注射器内筒への接触とシリンジ内汚染の関連（第1報），第40回日本看護科学学会学術集会，2020年12月。

性暴力被害にあった人への支援



医療技術学部 看護学科 教授

家吉 望み

IEYOSHI, Nozomi

URL : <https://researchmap.jp/nozo-ieyoshi>



看護・
リハビリ

橋樑キャンパス

キーワード：性暴力被害者支援、性暴力対応看護師、コンセンサスモデル、プログラム開発

研究の概要

【性暴力を取り巻く実態】

- ⇒ 人口比で考えると 20 歳以上の男女において約 246 万の被害者がいると推測される。こどもの被害者を含めると被害者の数はもっと多い。
- ⇒ 性暴力被害者の半数以上が「だれにも相談していない」現状があり、潜在的な被害者が多く適切な支援につながらない被害者が多くいる。
- ⇒ 「レイプ神話」のような被害者の責任を問う社会的スティグマがある。
- ⇒ 性暴力被害者の PTSD 発症率が高い。反復被害は複雑性 PTSD の発症にもつながる。
- ⇒ 性的事件の犯罪申告率は 18.5%、起訴率 32.1% であり、犯罪として立件されない性暴力も多い。強制性交等の不起訴の 69.3% は嫌疑不十分であり、「証拠がない」「同意していた可能性を排除できない」ことが主な理由である。

【支援における課題】

- ⇒ 申告率や起訴率の向上には、被害者が被害早期に相談しやすい支援体制の整備とともに証拠採取等の実施率の向上が必要不可欠である。
- ⇒ 国内の統計では証拠採取の実施率は不明であるが、証拠採取を実施している医療機関が限定されている。
- ⇒ トラウマを受けた被害者への支援＋犯罪被害としての証拠採取＋リプロダクティブヘルスへの医療が必要である。

医療者への専門的なトレーニングの機会が不足している。

- ⇒ 子どもの被害者への継続的なリプロダクティブヘルスに関連したサポートが不十分である。

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

性暴力対応看護師養成講座より



研究①

「性暴力被害者対応における急性期看護実践と教育プログラムのコンセンサスモデルの構築」

日本フォレンジック看護学会認定制度の日本版性暴力対応看護師 (Sexual Assault Nurse Examiner-Japan: 以下 SANE-J) が 135 名登録されている。

しかし、性暴力被害者への急性期対応において SANE-J による実践可能範囲は不明瞭なままである。実践可能範囲とともに SANE-J の実施責任を可能にできる教育プログラムの内容について関連機関のコンセンサスを得たモデル構築が必要である。

研究②

「性暴力被害にあったこどもへのリプロダクティブヘルスに関連した支援プログラムの開発」

子ども・思春期の性暴力被害によるリプロダクティブヘルスへの影響は大きい。深刻な自己の身体に対する認知の歪みや発達不全につながることもある。加えて、性的な行為への否定的な感情や、自身の体に関する誤った認知を持ったまま大人になり、妊娠・出産・子育てに支障をきたす。被害の内容と子どもの発達段階に応じたテララーメイドのリプロダクティブヘルス支援が必要である。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

海外では SANE (Sexual Assault Nurse Examiner) が検査官として被害者の証拠採取の責任を担いレイプキットを使用し被害者に対応している。日本国内では統一されたレイプキットはまだない⇒被害者対応のプロトコルに沿ったレイプキット開発につなげていきたいと考えている。

被害にあったこどもへのリプロダクティブヘルス支援プログラムでは、年齢に沿ったモデル人形、絵本・本の使用が必要になる。そのため、それからの開発が必要になる。

知的財産・論文・学会発表など

- ・性暴力被害直後の女性支援において産婦人科医療で求められる看護実践能力，日本看護科学学会 43 18-27 2023 年 6 月
- ・性暴力被害女性の産婦人科医療受診時の体験，母性衛生 59 (1) 63-73 2018 年 4 月
- ・「連携型」ワンストップ支援センターの協力病院における性暴力被害者支援の実際と課題，日本フォレンジック看護学会誌 9(1) 49-49 2022 年 9 月

地域で生活する長期入院経験を有する 統合失調症者のライフストーリーに関する研究



医療技術学部 看護学科 講師

伊藤 文子

ITO, Fumiko

看護・
リハビリURL : https://jglobal.jst.go.jp/detail?JGLOBAL_ID=202001018484715087

板橋キャンパス

キーワード：統合失調症、長期入院経験者、ライフストーリー法

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

研究の概要

統合失調症とは、思考の異常や自我の障害を主とした疾患である。また、一度罹患すると慢性の経過を辿るため、統合失調症の人々（以下、当事者とする）は、疾患を抱えながら生活を構築していく必要がある。そして、疾患からくる症状や機能障害だけではなく、活動制限や参加制約による社会的な孤立や自尊心の低下が、QOL や社会生活技能等に関連することが明らかにされている。このような状況から、当事者が地域において自分らしく生活を構築するためには、医療者側など周囲からの手厚いサポートが必要不可欠と考えられてきた。しかし、当事者が治療を続けることにより症状のコントロールが可能となり、かならずしも他者のサポートがなくとも、自律的な生活の営みが可能になることも明らかにされている。よって、偏見などから一見理解されにくい奇行と思われるようなことでも当事者の行動一つ一つに意味があることを、ライフストーリー法という、その当事者のライフ（人生・生涯・生活・生き方）に焦点をあて、その人の経験を基に自己の生活世界そして社会や文化の諸相や変動を読み解きながら、その人が丁寧に積み上げているライフを明らかにできる。この手法を活用しながら、かれらがどのように生活実践を行い、自分の生活を維持しているのか、また当事者の生活を支えている社会資源や方略がどのようなものか、医療者側の考えるサポートではなく、当事者が必要とするサポートが見いだせるような研究を行っている。以下は、分析手順の概略である。

1. 当事者の語りを文字化する(トランスクリプト(逐語録)の作成)



2. 語りからストーリーを抽出し、当事者のこれまでの経験（物語世界）とその経験をどう評価しているか（ストーリー領域）を整理して、その人のコアになる考え方を抽出する。



3. ストーリーごとの分析・解釈(当事者の語りからの発見)

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

ライフストーリーとは、個人のライフ（人生・生涯・生活・生き方）に関する口述の物語のことをさす。個人のライフに焦点を合わせ、その人の経験を基に自己の生活世界そして社会や文化の諸相や変動を読み解くことを目的としている質的調査法の一つであり、その人の人生の背景（ライフヒストリー）を踏まえながら、個人のライフを明らかにできることから、当事者自身の価値基準に沿った生活世界についての理解が期待される。

知的財産・論文・学会発表など

- ・伊藤文子：トランスクリプトをまとめるにあたっての私の経験，伊藤文子，語りの地平（7）134-142 2022.
- ・伊藤文子：精神科病院への長期入院の背景－Aさんの語りから見る3つのポイント－，（社）日本ライフストーリー研究所，6, 115-130, 2021.
- ・伊藤文子：地域で生活する長期入院経験を有する統合失調症の人びとにおける自尊心の維持に関するライフストーリー研究，（社）日本ライフストーリー研究所，5, 54-68, 2020.

【科研費若手研究】地域で生活する長期入院経験を有する統合失調症者の生活維持の方略とその支援の在り方（22K17481）研究代表者，2022-2025 年度。

子育て世代のがんサバイバーとその子どもへの オンライン・サポートと情報に関するニーズ



医療技術学部 看護学科 准教授

古屋 洋子

FURUYA, Yoko

看護・
リハビリURL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.b09dd07706a7b2f7.html>

板橋キャンパス

キーワード：子育て世代、がんサバイバー、オンライン・サポート、情報ニーズ

研究の概要

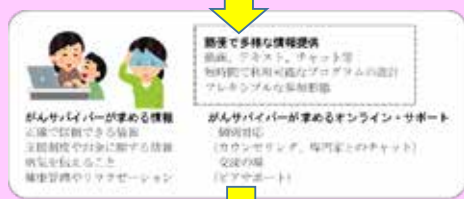
日本では、がん患者である親を持つ 18 歳未満の子どもの数は約 87,000 人にのぼると推定されている。親ががんに罹患すると、子どもは心理的な衝撃、不安、恐怖を抱きやすく、心身の発達に影響を及ぼす可能性がある。一方、親自身も治療や健康管理を優先せざるを得ず、子どもへの十分な配慮が難しい場合がある。子育て世代のがん患者を対象とした研究では、患者が親として特有の懸念を抱えている実態が示されており、特に母親は、愛情を注げない辛さや、同じ経験を共有できる仲間がいない孤独感に悩む傾向が強い。国内では、がんサバイバーの親を持つ子どもを支援するプログラムが展開されているが、対面支援では移動や体調等の制約、安全上の理由等、課題がある。

子育て世代のがんサバイバーが治療を通じて子育てに受けた影響を明らかにし、治療中に求められるオンライン・サポートおよび情報提供の具体的なニーズを把握し、がんサバイバーとその子どもが安心して利用できるオンライン・サポートおよび情報提供における課題と方向性を検討している。

SDGs 目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

第1段階

◎がん治療が子育てに与えた影響とオンライン・サポートと情報に関するニーズの把握(Web調査)



第2段階:

◎オンライン・プログラムの開発および掲載情報の検討

がんサバイバーとその子どもへのオンライン・サポート・プログラムの開発とニーズに見合った情報掲載



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

オンライン・サポートは、場所や時間、経済的な制約を超えて柔軟に支援を提供できる。がんサバイバーやその子どもが、体調や場所に関係なく他者とつながり、必要な支援を受けられる。また、同じ経験を持つ仲間との交流を通じて孤独感を軽減し、特にがん患者の親を持つ子どもの社会的孤立を防ぐ効果がある。さらに、Webを活用した情報提供は、必要な情報を迅速に取得する手段を提供し、リテラシーの向上にも寄与する。これにより、支援ネットワークの拡大や孤立感の軽減が期待される。

知的財産・論文・学会発表など

国内学会発表予定（最新の研究成果）：

- ・子育て世代のがんサバイバーへのオンライン・サポートと情報に関するニーズ調査、古屋洋子、南川雅子、三木佑子、伊藤文子、若松千尋、第 39 回日本がん看護学会学術集会、2025。
- 第 5 回 SGH がん看護研究助成

ICF に基づいた合理的配慮提供に関する研究



福岡医療技術学部 理学療法学科 教授

堺 裕

SAKAI, Yutaka

URL : <https://researchmap.jp/010>



看護・
リハビリ

福岡キャンパス

キーワード：ICF、合理的配慮、特別支援教育、小児

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

研究の概要

【健康状態】		
【心身機能・身体構造】 b1645 判断＊	【活動】 d4運動・移動＊＊ d7 対人関係＊ d177 意思決定＊	【参加】 d7 対人関係＊
【環境因子】 e5853 特別な教育と訓練についてのサービス	【個人因子】 認知の特性 発達の段階、年齢等	

＊：提供する際の留意点に関するもの ＊＊：障害の状態に関するもの

図：合理的配慮提供における ICF の活用例（日本特殊教育学会第 55 回大会発表論文集より）

特別支援教育における ICF（国際生活機能分類）の活用を図るため、特別支援教育と関係の深い ICF カテゴリーを明らかにするとともに、ICF モデルを児童生徒の実態把握から指導・支援を導き出すためのツールとして実践的に活用し、その有効性を示してきた。合理的配慮提供に関しては、中央教育審議会初等中等教育分科会による「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」のなかで述べられている合理的配慮の 3 観点のなかの 11 項目に関する内容と ICF カテゴリーを照合することにより、合理的配慮を検討する上で参考となる ICF カテゴリーを抽出した（堺他, 2015）。さらに国立特別支援教育総合研究所によるインクルーシブ教育システム構築支援データベースの実践事例を基に、実際に提供された合理的配慮の内容と関係の深い ICF カテゴリーを明らかにすることにより、合理的配慮を決定するための ICF コアセットの作成に取り組んでいる（堺他, 2018）。

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

特別支援学校に在籍する児童生徒を担当する理学療法士にとって、特別支援教育との連携が大切であることはいうまでもない。昨今、合理的配慮の提供に関する法整備がなされ、特別支援教育における ICF 活用はより一層意義深いものとなっている。そこで、特別支援学校に在籍する症例や特別支援教育現場において ICF が有効に活用されるために、実践研究に力を注いでいる。障害のある児童生徒の実態把握やそれに基づく合理的配慮の提供を効果的にプランニングできるよう ICF をツール化することは、適切なプロセスに基づいた治療、指導、支援の提供ひいてはインフォームド Consent、多職種連携、帰結の向上等のためにも有効となる ICF ツールソフトの開発につながるものである。

知的財産・論文・学会発表など

- ・堺裕：合理的配慮検討における ICF-CY カテゴリーの活用，日本特殊教育学会第 55 回大会発表論文集，2017
- ・堺裕他：病弱・身体虚弱のある児童の心理面・健康面に関する合理的配慮 ICF-CY コアセット作成の試み—インクルーシブ教育システム構築支援データベースの実践事例と ICF-CY との適合性検討に基づいて—，帝京大学福岡医療技術学部紀要，13, 9-19. 2018.

よかば〜い体操の効果



福岡医療技術学部 理学療法学科 教授
関 誠 SEKI, Makoto

URL : <https://www.teikyo-u.ac.jp/activity/>



看護・リハビリ
福岡キャンパス

キーワード：よかば〜い体操、介護予防、身体機能

研究の概要

テーマ

新型コロナウイルス禍における巡回運動教室と運動動画視聴が身体機能に与える効果の検証

方 法

「よかば〜い体操巡回教室（32 教室実施）」参加者の 2021 年 11 月以降の体力測定とその 6～8 ヶ月後に行われた体力測定を比較

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を



よかば〜い体操巡回教室のプログラムについて

高齢者の特徴的な課題

- ・体力が全体的に低下している
- ・筋力低下が顕著になる、関節痛が増える
- ・生活習慣病
- ・認知機能低下、記憶力低下
- ・運動習慣の減少、内服薬の服用など

高齢者課題より考えられる課題の特徴

- ・認知機能低下
- ・運動習慣の減少、内服薬の服用など
- ・認知機能低下
- ・運動習慣の減少、内服薬の服用など

筋力トレーニング

- ① 腰屈伸、背屈伸
- ② 大股踏み
- ③ 大股踏み（広範囲）
- ④ 膝屈伸
- ⑤ 中股踏み

柔軟性トレーニング

- ① 大股踏み、小股踏み
- ② 膝屈伸
- ③ 膝屈伸
- ④ 膝屈伸
- ⑤ ハムストリングスなど

運動的トレーニング

- ① スラット
- ② ニーベントウォーキング
- ③ バランスパッドエクササイズなど

動画（DVD配布・YouTube配信）・解説書配布

よかば〜い体操巡回教室 参加者に動画（DVD配布・YouTube配信）・解説書配布をできるように促した。



動画（DVD配布・YouTube配信）



解説書配布

※Icoxon の符号付き順位検定

		前	後	差	差の絶対値	差の絶対値	差の絶対値	差の絶対値
フアンファンズ（m）	高年齢	201	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9	21.9
	低年齢	201	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2	22.2
Finger up and go（秒）	高年齢	201	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7	4.7
	低年齢	201	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8	4.8
膝た（屈）（kg）	高年齢	201	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3
	低年齢	201	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3
膝た（屈）（kg）	高年齢	201	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3
	低年齢	201	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3	18.3
長座体前屈（cm）	高年齢	201	30.9	30.9	30.9	30.9	30.9	30.9
	低年齢	201	30.9	30.9	30.9	30.9	30.9	30.9

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言と蔓延防止等重点措置のために、外出頻度が少なくなった高齢者がハイブリッド方式による「よかば〜い体操巡回教室」に参加することにより身体機能が向上することが示唆された。

知的財産・論文・学会発表など

九州理学療法士学術大会 2023 in 熊本 新型コロナウイルス禍における巡回運動教室と運動動画視聴が身体機能に与える効果の検証 2023. 11. 26

VR リハビリシステムの開発



福岡医療技術学部 作業療法学科 教授

沖 雄二

OKI, Yuji

URL : <https://bit.ly/4eBMLij>



**看護・
リハビリ**

福岡キャンパス

キーワード：バーチャルリアリティ、医学教育

研究の概要

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を
SDGs 目標4：質の高い教育をみんなに

1. VR 視聴によるストレス軽減効果

対象者のストレス軽減に効果を実証

2. VR を用いた疼痛軽減効果

対象者の疼痛軽減に効果を実証

3. VR と運動負荷

疲労度・心的負担を検証

4. VR によるビジョントレーニング

軽度認知障害者の自動車運転能力や
発達障害児の学習能力に与える影響を調査

5. VR による医療従事者教育

実技（喀痰吸引等）の学習効果を検証



共同研究開発によるVRリハビリシステム



運動負荷・ストレス



ビジョントレーニング



医療従事者教育

実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

VR 技術を用いたリハビリテーション、疼痛軽減、ストレス軽減、認知機能改善、医療従事者教育など、幅広い分野で研究を行っています。企業との共同研究による VR リハビリシステム「おき楽リハ」の開発は、その代表例です。

私の研究成果は、医療機関、介護施設、教育機関、VR コンテンツ開発企業など、様々な分野での応用が期待されます。

知的財産・論文・学会発表など

- ・福祉・医療の現場からバーチャルリアリティ技術を活用した医療・福祉分野への新たな取り組み
地域ケアリング 6 26 72 - 76 2024 年 06 月
- ・単群試験における認知症高齢者のストレスに対するバーチャルリアリティ視聴の効果検討作業療法の実践と科学
公益社団法人 北海道作業療法士会 2024 年 05 月
- ・認知症高齢者における Virtual Reality を使用したストレスへの影響に関する研究
地域ケアリング 25 5 45 - 48 2023 年 04 月
- ・バーチャルリアリティ視聴による慢性疼痛軽減効果の検証
帝京大学福岡医療技術学部紀要 18 19 - 23 2023 年 03 月

急性期部署で働く中堅看護師の仕事における喜びの経験



福岡医療技術学部 看護学科 講師

山口 恭平

YAMAGUCHI, Kyohei



URL : <https://www3.med.teikyo-u.ac.jp/profile/ja.9a2283bcf68107c2.html>

**看護・
リハビリ**

福岡キャンパス

キーワード：急性期部署、中堅看護師、喜び

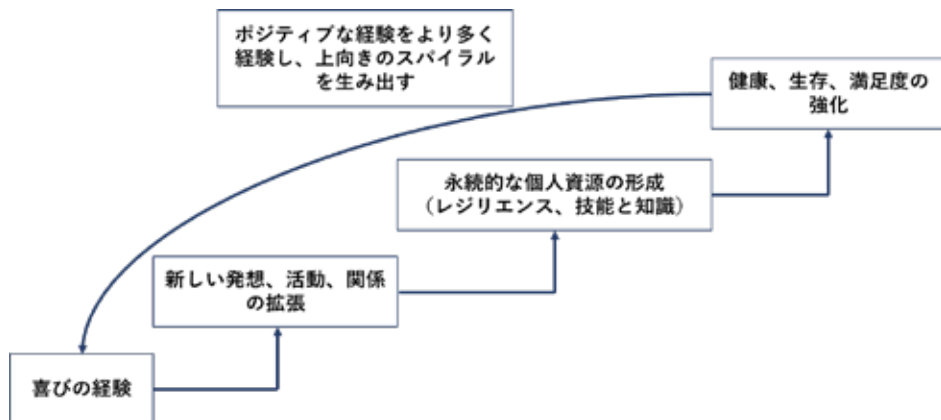
SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 8：働きがいも経済成長も

研究の概要

救命救急部や集中治療部、高度治療部といった急性期部署では、日々進化する多様な医療機器を駆使した高度な治療や患者管理が求められており、看護実践能力を有する中堅看護師が必要不可欠です。一方、中堅看護師は、キャリア・プラトー（成長の停滞）に陥りやすいと報告されており、特に負担の大きい急性期の環境ではその傾向が高まります。この停滞から抜け出せない場合は離職につながる恐れもあるため、仕事の満足度や新しい視点を得ることが重要です。

仕事の満足度や新たな視点の獲得には、ポジティブな感情が必要であり、日本においては、広く認知されやすい「喜び」が重要と考えます。しかし、看護師の「喜び」に焦点をあてた研究は十分ではありません。そこで、本研究は、急性期部署で働く中堅看護師の仕事上の喜びの経験を明らかにすることです。



実学へのつながり・産業界へのアピールポイントなど

中堅看護師の仕事上の喜びの経験を明らかにすることは、中堅看護師の仕事の満足度を高めることにつながり、キャリア・プラトーの予防、脱出、さらには職場の定着や看護の質の向上に寄与できると考えます。

知的財産・論文・学会発表など

学術研究助成基金助成金 基盤研究 C

看護師のワーク・エンゲイジメントを向上させるプログラムの開発